



大阪中央区、中之島のバラ公園

どんな言葉を語りますか

初めにことばがあった。

ことばは神とともにあった。

ヨハネの福音書 | 章 | 節

令和は、日本の元号の一つです。その名称は、日本に現存している和歌集の中で最古の「万葉集」から引用されたそうです。令和の考案者とされる国文学者の中西進氏は、「全ての文章は自画像であり、人は自らの絵を描きながら日々生活をしている」と語っておられます。

近年は、読解力・語彙力などの国語力が落ち、その原因はスマートフォンやSNSなどの発達ではないかと言われていますが、中西さんは「本当にそうなのか」と疑問を投げかけています。中西さんは、いま身近にある便利なものは、単なる手段・方法であって、問われるべきは「書き手の主体である」と言います。そして読書を通じて言葉を蓄えることの重要性を説き、「たくさんの本を読み、豊かな主体である人間が豊かな書き手となり、未完成感が完成に向かっていく」と語りました。比較的、書くことが多い私は中西さんの言葉に魅せられました。言葉が並べられ文章となりますが、その文章で実は自分の自画像を描いているということです。確かに、人により文章は異なりますが、すべては言葉が始まりです。文章を通じて、その人が見えてきます。辛口批評で有名な愛媛県松山市に

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 穎一郎



住む俳人、夏井いつき女史は「言葉っておもしろいです」と語っておられます。

ところで聖書は、ヨハネを通して大切なことを教えています。「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」中西さんの言葉を借りるならば、聖書は自画像を描いています。神がアブラハムに約束(契約)されたのは「ことば」でした。神がモーセに十戒を与え、人の生きる道を教えられたのも「ことば」でした。神が幾世代もの民に、預言者を通して語りくださったのも「ことば」でした。旧約聖書は、神がお語りくださった「ことば」です。イエス・キリストは公生涯のはじめ、3度の大きな試練を受けられましたが、旧約聖書の「ことば」で悪魔を制せられました。神のことばには力があります。初代教会時代の大伝道者パウロは、「私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。」(エペソ6:19)とエペソ教会へ要請しました。私たちは日々、どんな言葉を語っているでしょうか。自問自答しようではありませんか。

南カリフォルニアの日本人伝道の現状 ～コロナが続く中で②～

私が日本語牧師をしているガーデナ平原バプテスト教会は、教員数が約700人（英語600人と日本語100人）で、アメリカでは中くらいのサイズの教会となります（アメリカではメンバーが1000人を超えると「大教会」と呼ばれます）。コロナで教会に集まれなかつた時からオンライン礼拝にも力を入れはじめ、クオリティーの高い映像での礼拝ライブ配信をしています。毎週の日本語オンライン礼拝の視聴回数は200回前後となっています。視聴回数の中には、一人の方で複数回視聴される方もいます。また、一回の視聴で夫婦や家族全員というように複数で観ている場合もあります。したがって、必ずしも視聴回数と視聴者数は一致しません。それでも以前の礼拝出席者数をはるかに超える方が、オンラインで礼拝していることは明らかです。オンラインでのミニストリーには可能性があります。

オンライン礼拝

コロナ期間中に10人を超える方が私たちの教会のオンライン礼拝を見て、信仰の決断をされました。そのうち二人は対面礼拝再開後に私たちの教会で洗礼を受けました。しかし、残りの方は南カリフォルニアではない地域に住んでいる方々ですから、他の教会につながっておられます。中には様々な事情から、今だにオンラインだけで礼拝を続けておられる方もいらっしゃいます。ある方はオンライン礼拝を見る中で信仰の決断をしましたが、コロナで教会がまだ閉じている間に天に召されました。この方はクリスチャンである息子さんにはっきりと信仰の決断を伝え、「自分の葬儀は大里牧師にお願いして、キリスト教葬儀とすること」という遺言を残し、天に帰られました。私はこの方と地上でお会いしたことは一度もありませんでしたが、息子さんから葬儀の依頼があり、心を込めて司式をさせていただきました。

オンラインでのミニストリーをいつまで続けるのでしょうか。コロナは収束することなく、これからインフルエンザと同じような一般的な病気となっていくでしょう。その中でオンライン礼拝を続けると、教会での対面礼拝や活動に戻つてこない人も出ると思われます。しかし、それ以上にまだ教会につながっていない人がオンライン礼拝で救われる可能性がありますので、オンラインでの礼拝配信は今後も続けていく必要があると確信しています。

E-TIME

オンラインでの礼拝配信を続けながらも、教会での対面礼拝にまだ戻つていない教会メンバーだけでなく、まだクリスチャンではない人たちを教会に導くために教会で何かを始める必要がありました。そこで「E-TIME」という日本語と英語の2か国語による礼拝を今年1月から始めました。「E-TIME」の「E」は英語の“Encounter”という言葉の頭文字で、その意味は「出会い」です。「ここでイエス様に出会ってほしい」と

ガーデナ平原バプテスト教会
牧師 大里 英二

いう願いが込められています。「E-TIME」は毎月の第2土曜日の夜7時から行なっています。基本は礼拝賛美、救いの証し、わかりやすいショート・メッセージのすべてが、毎回日本語と英語であります。教会の礼拝に一度も出席したことのない人にもわかりやすい内容を心がけています。

また、クリスチャンの音楽家をお招きしてコンサートをする月もあります。このコンサートスタイルの「E-TIME」はまだ教会に来たことがない人が教会に来るきっかけになることを一番の目的としています。しかし、実際には礼拝の時もコンサートの時も、クリスチャンが出席しても大変励まされ、信仰の成長につながるものとなっています。このように「行ってみたい」と思わせることを教会ですることによって、足が重くなってしまった教会員が対面礼拝に戻つてくることを期待しています。それと同時にこの「E-TIME」で日本人留学生たちを教会に集めることができますと信じています。なぜならすべてが2か国語で行われる「E-TIME」は、語学留学生にとっては英語上達にとても役立つものだからです。

この「E-TIME」もライブ配信をしています。1月の第一回「E-TIME」は宣伝不足と当日はあいにくの雨だったため出席者は30人ちょっとでした。しかし、ライブ配信した結果オンラインでの視聴者は200人を超えました。第二回「E-TIME」はクリスチャンシンガーのAsiahさんをお招きしコンサートを開きました。会場には約70名が集まり、オンライン視聴者は130名を超えました。コロナ後の教会の働きは、対面かオンラインかのどちらかの二者択一ではありません。対面での礼拝やミニストリーを第一としながらも、オンラインだからこそ福音を受け取ることができる人もいることを忘れずに、両方を祈りつつ続けていくことだと思います。（つづく）



ガーデナ平原バプテスト教会の毎週の日本語礼拝、また、月に一度の「E-TIME」は下記のURLから視聴することができます。
<https://www.youtube.com/c/GVBCJPMedia/videos>

黒田禎一郎牧師と行く イスラエル10日間の旅

涼しくて快適な秋のイスラエル、砂漠のネゲブ平野から緑いっぱいのガリラヤまで、聖書を手にし、イエスと聖徒たちの道を訪ねる、ゆったりした楽しい旅です。

期間：2023年10月18日(水)～27日(金)10日間

募集人数：20人(最少催行人員15人)

旅行代金：568,000円 燃油チャージ114,000円(2023年2月現在)

申込締切：2023年7月31日(月)

団長：黒田 禎一郎 利用航空会社：エミレーツ航空、関空発

お申込・問合せ：(株)ホーリーランドツーリストセンター

大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター 5F

電話：06-6226-1307 フックス：06-6226-1308 企画：ミッション・宣教の声

ロシア軍がウクライナへ侵攻して、早くも14ヶ月以上経過しました。現地では今日もミサイルが飛び、ウクライナとの間で激しい戦闘が続いています。戦争がいつ終息するか見通し



新約聖書を配布するニコライ牧師

がつかない状況下で、現地の教会とクリスチャンは厳しい日々を送っています。次はロシア国境に近いハルコウ地方のヴォルチャンスク・バプテスト教会のニコライ牧師からのレポートです。

同胞への愛

戦場ウクライナは日々変化しています。昨年のプーチン・ロシア軍侵攻後、婦人と子どもたちは国外へ緊急避難し、その状態は現在も続いています。男性で兵役につける人たち(16歳~60歳)は、国を守るために銃をとり戦場に出ています。残っている人たちの多くは、一般的に高齢者と身体的理由から移動できない人たちです。私はそこで西側へ避難するのではなく、当地に残り同胞たちにキリストの福音を伝える道を選びました。私の妻と親族はドイツへ避難していますが、ここヴォルチャンスクには多くの助けを必要とする人々がいます。私に与えられた務めは、危険と恐れの中にいる同胞たちの支援です。彼らの多くが、今日も爆撃から避難し地下防空壕に避難しています。彼らの大多数は、キリストの福音を一度も聞いたことがない人々です。

傷ついた心

爆撃が容赦なく続きミサイルが飛んでくる中、多くの人々は不安に襲われています。いつ自分の身に危険が襲うか予知できないからです。またいつロシア軍が再侵攻し、自宅に入ってくるか予測できない状態です。人々には昼夜を問わず恐れが襲ってきます。それにロシアからのテレビやラジオから流れるニュースは、ロシア軍優勢というプロパガンダの知らせです。ウクライナでありながら敵国のニュースが常に入ってくる異常事態で、一体何が正しく、何が間違ったニセ情報か識別が難しくなってしまいます。ほとんどの人々は家と家財を失い、安息の場が失われ途方に暮れています。そのような傷ついた心を癒すのは、ただ神のみことばとキリストの福音です。私は真の助けは国家や支援団体から来るのではなく、イエス・キリストの福音にあると信じています。

戦後はどこへ

私たちに与えられた務めは先ず戦争被災者の支援ですが、支援は戦後も続く大きな課題であります。当初、私たちは住民たちを助け避難させることに全力で力を注ぎました。

避難民を安全な地へ移動させるため、軍の検問所を通過し、戦闘地域から人々を少しでも遠くに避難さました。はじめは手探りでしたが、その後公式の通過パスを受け取りました。ウクライナ東部では現在、食料、衣類、発電機、懐中電灯、ろうそく等が深刻に不足しています。これらすべては戦前の通常の生活では、緊急に必要とされるものではありませんでした。現在、ウクライナ軍は私たちの本来の地域を奪還しましたが、家屋とインフラ全体が破壊され、現実にこの地域に住むことは不可能です。水もガスも電気もありません。私たちには行き場がありません。これからも長期のサポートがまだ必要です。



じゃがいもを届けるニコライ牧師

伝道のチャンス

戦争は誰にとっても過酷ですが、伝道者である私にとってはキリストの福音を語るチャンスもあります。人々は神の愛を経験する機会です。社会が平和であった通常の生活で、人々は他のことで忙しくメッセージを聞く時間はありませんでした。しかし今は違います。人々は真剣に耳を傾けてくれます。それに何よりも、私たちを観察しています。多くの場合、慈善活動は最高の説教となっています。

最近ですが、私は知人と電話で話しました。彼とは以前に神について話し合ったことがあります。その彼が電話の中で、彼らの場所が前夜砲撃を受けたと言いました。そして彼と夫人は神に助けを祈り求め続けたと言いました。彼らはイエス・キリストに罪の赦しと恵みを求めました。これから彼が祈り続けるかどうかはわかりません。しかし人間は窮地に追い込まれるならば、何をすべきか知っています。神は戦争という悲惨な状況で、私たちに聞いかけてくださっています。



救援物資を受け取りに集まった人たち

証しとなる隣人愛

しばらく前、私たちはキーウ北東にあるボロジヤンカの町へ支援に行きました。この町はロシア軍から奪還されたばかりでした。途中、故障した車が停車していたので、修理の手伝いをしようと立ち止まりました。すると後続の車両10台ほどが次々に停止しました。そして車の運転手と乗客が降りて、修理の手伝いを申し出ました。彼らは西側からのキリスト教支援団体の方々で、クリスチヤンであることが判明しました。私は大きな驚きに包まれました。なぜなら、これほどの隣人愛を見たことがなかったからです。それは神を知らない人々にとって、じつに幸いな証しです。非常に多くの必要を抱えるウクライナで、神はあらゆる機会を用いてキリストの愛を届けようとしてくださっています。

皆様のお祈りとご支援に感謝しています。

(つづく)

イエス・キリストが十字架にかけられた時、太陽は光を失い、まだ真昼だというのに辺りは暗闇に包まれ、長い時間闇が支配しました。イエス様の絶命の瞬間、サタンは勝利を確信し、弟子たちは完全に希望を失いました。しかし、闇は光に勝つことはありませんでした。神の御子イエス様は復活されました。イエス様の十字架は、敗北で終わったように見えても、復活という神の御業で、見事な逆転勝利となりました。そして、私たちもその人生が、どんなに厚い暗雲で覆われようと、逆転勝利をおさめられたイエス様と共に歩むなら、天のお父様は私たちの敗北さえも覆し、終わりのない勝利へと導いて下さいます。

スクリーンの代弁者

脱北を果たしたキム・ギュミンは、大韓民国で苦学生として、大学で文芸芸術を専攻し、俳優を目指していました。しかし、彼は映画監督というかたちで表現者として生きる道があることを知り、日本でも有名な脱北映画「クロッシング」の助監督を経て、自らも映画監督としてメガホンを取り、数々の北朝鮮人権映画を生み出しました。その中で「愛の贈り物」という作品は、国際人権映画祭に出品され、また海外の映画祭で、最優秀作品賞を受賞しました。彼が撮る映画はドキュメンタリーで、ストーリー仕立てです。しかしエンターテインメント性に欠けるゆえ、ハッピーエンドではなく、悲惨な結末を迎えるものが多くあります。彼は北朝鮮国民の生きた叫びが、この世の誰にも知られず、かき消されることがないように、スクリーンを通して同胞たちの苦悩を代弁しています。

敗者人生

そんなキム・ギュミンが生まれた1974年の北朝鮮は、2代目独裁者、金正日が公式後継者として華々しく登場した頃でした。金正日は金日成の統治理念を主体思想という信仰で掲げ、それに基づいて社会全般を金日成主義という統治哲学一色に染め、金正日は瞬く間に北朝鮮全土を掌握しました。これに異議を唱える者たちは、全ての分野から排除され、公開処刑や政治犯収容所に閉じ込められることになりました。ギュミンの両親は学識が高く金政権に忠実でしたが、ギュミンの祖父母が日本統治下で学び、裕福に暮らしていたという理由だけで、ある夜に突然父は政治犯収容所に連行され、未だに父の消息はわかりません。

残された母親とギュミンと弟は、田舎へ追われ、母は夫との離婚を党から強要されました。このような環境にあっても、二人の息子たちだけでも立派に育てようと母は懸命に働き、成績優秀だったギュミンを大学まで行かせました。厳しい環境の中で、名門大学へ進学したギュミンでしたが、父親が政治犯という影響で、社会的なあらゆる面でいじめを受けました。やがて、金日成の崩御とともにやってきた大量餓死により、母は餓死し弟とも生き別れました。絶望した彼は行くあてもないのに、知人の助けで



国境の板門店に立つ軍人

豆満江を渡りました。国家に翻弄され、独裁呪縛の敗者として生きるしかないギュミンに、神様は彼を逆転勝利に導く準備をされました。

揺らぐことのない勝利

そんなギュミンを中国で、韓国人宣教師が拾い上げ居場所を得ることになりました。宣教師たちを通して、ギュミンは生ける真の神を知り、他の脱北青少年たちと共に聖書通読をし、絶望に打ちひしがれていた彼の心は、御言葉で回復していきました。ギュミンはイエス・キリストを自分の救い主として受け入れ、神の子として信仰によって生きていく決心をしました。それからの彼は、祈りに励むようになり、これから先、自分は何処へ行くべきか主のお導きを求めるようになりました。主は彼の祈りに応えてくださり、大韓民国へ行くことを決意しました。神に出会う前のギュミンは、生きる屍のように力なくさまよう旅人でした。しかし新しいのちを受けた彼は、力強く一步を踏み出し、ベトナム経由で大韓民国を目指し旅立って行きました。

その後、ギュミンは同じ脱北者の妻と結婚し、二人の娘をもうけ、現在幸せな家庭生活に恵まれています。彼はトラック運転手として生計を立てながら、妻の協力も得て、映画を自費制作で撮り続けています。しかし、ギュミンは北朝鮮人権よりも先ず、イエス・キリスト御自身を愛し、どんな時にも感謝と礼拝を捧げる日々を送っています。敗者としての彼の人生は、イエス様の勝利によって逆転しました。イエス・キリストが与える勝利は、決して揺らぐこともなく、そして終わりもありません。

殉教者たちの受け継がれる逆転勝利

イエス様は弟子たちにも、逆転のチャンスを用意していました。復活されたイエス様と出会った彼らは、その後大胆に御言葉を伝え、臆病で弱い彼らはもう何処にもいませんでした。弟子たちはキリストへの愛ゆえに生命を捧げ、勝利者として天へ凱旋していきました。しかし、この彼らの逆転勝利のストーリーに終わりはありませんでした。

テルトゥリアヌスは2世紀後半に「殉教者の血は教会の種子」という言葉を書き残しました。初代教会時代から現在に至るまでの殉教者たちが、その血と引き換えに守り抜いた信仰は、教会をさらに強める結果となりました。教会は試練に晒されながらも、何度も立ち上がっています。現在、北朝鮮では地下教会が増え広がっています。ここにも終わることのない逆転勝利の御業が起こっています。北朝鮮のキリスト者は今なお教会の種子となり、その種子は偶像国家を搖るがしています。やがては南北が福音によって統一される日が、もうそこまで来ているかもしれません。その日、キム・ギュミン監督は、どんな映画を撮るでしょうか。ハッピーエンドの映画を撮る日になるのではないでしょうか。

「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」

(ヨハネ1:5)

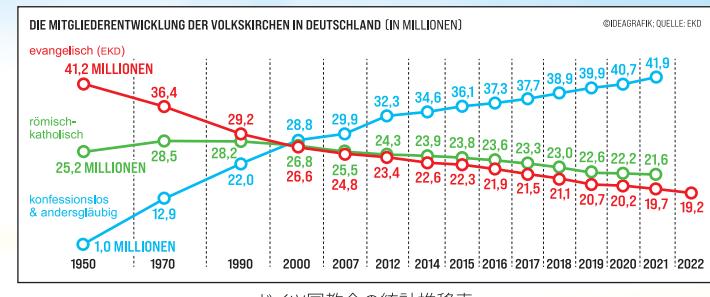
ドイツ

心理学者で広報担当者のアーマド・マンスー(ベルリン)氏は、トルコ・イスラム連合の新中央モスクと宗教研究所(DITIB)建設計画を批判しました。新モスクはドイツ中部のヴッパータールにあり、最大700人の礼拝者を収容できるモスクと考えられます。この建物は、ヴッパータール・エルバーフェルド地区の約6,000平方メートルの敷地に建設される予定です。DITIBは、敷地内にカフェ、幼稚園、クラブハウス、住宅およびオフィスビルも計画しています。さらに公民館は、近隣に住む人々の出会いの場となることを目的としています。ヴッパータール市議会は、CDU、SPD、FDP、緑の党等政党によってプロジェクトを承認しました。



建築予定の中央モスク

マンスール氏は、「DITIBモスクはトルコのエルドアン大統領の影響を直接受けている。」と語っています。彼らのイマーム(聖職者)と説教内容は、トルコ政府の影響を受けていると言います。イマームは、イスラム教徒が民主主義社会に溶け込むことを困難にさせる価値観を伝えているゆえ、「ドイツはそれを許してはならない」とマンスール氏は主張しています。ヴッパータール・エルバーフェルド地区は、古くから堅実なキリスト教神学大学があり、ドイツ福音派教会で愛読されている聖書翻訳の一つ「エルバーフェルド訳」で知られています。新中央モスク建設は、ドイツ・キリスト教界に対する大挑戦です。お祈りください。



ドイツ国教会の統計推移表

ボーンアゲインしたクリスチャンのキラ・ガイズ女史(20歳)は、3月4日開催された「ミス・ドイツ」大会で、1万5千人の応募者から見事1位に選ばれました。決勝では9人の候補者が残りましたが、彼女が新しい「ミス・ドイツ」に選ばれました。キラ女史は現在、シトウットガルト郊外にある福音派のウンターンヴァイザックのミッション・スクールで、宗教と教育学を学び、教育者になる学びをしている学生です。彼女はこれから多忙な生活に入るため、学校を1年間休学する予定です。

彼女は16歳の時に、教会の青年会を通してイエス・キリストに出会いました。かつては酒やドラッグに溺れた生活を送っていましたが、人生が一転し新しい人生が始まりました。彼女は1年前に友人と共にマクデブルクの地方教会で、「青年会」を始めたところでした。キラ女史は、人生の生きる道を求める若者にキリストの信仰を伝えたいと願っています。

彼女は賞金2万5千ユーロを、ドイツ全土の若者向けのプラットフォーム「ジェネレーションZ」(G.Z.)を立ち上げ、そのために用いるそうです。G.Z.は1990年代後半から2010年までに生まれた若者が対象です。彼女は受賞インタビュー記者会見で、決勝戦前に祈ったかどうか尋ねられた時、「はい、祈りました。でも勝利のためではありません。私の人生が正しい道を歩めるようにと祈りました。」と答えました。「ミス・ドイツ」の主催者側は、2019年以来単なる「美」を競うコンテストではなく、本人の「使命感」に焦点を当てていると語っています。「ミス・ドイツ」のプレス・スポーツマーケティングであるジル・アンダート氏によれば、選考はプロフェッショナリズム、インスピレーション、および開発能力に焦点が当たったと言います。今回の受賞は、彼女の信仰が少なからず働いたものと思われます。今後、キラ・ガイズ女史が主の栄光のために用いられますよう、お祈りください。



ドイツ宗教局は、昨年の国教会からの脱会者数を正式発表しました。それによれば、12月31日までにドイツ20州で約38万人の信者が国教会から脱会しました。前年度の脱会者数約28万人に比べ増加しました。最も多いのは改革派教会でした。キリスト教会の将来を考えるならば、深刻な課題となっています。

1950年から2022年までの教会員数推移は、表(右上)のようです。赤字はプロテスタント教会で4千120万人から1千920万人へ減少、緑色はカトリック教会で2千520万人から2千160万人へ減少、そして青色は無宗教と他宗教で100万人から、4千190万人と増加となっています。これらの背景には、生けるイエス・キリストが信仰の中心から消えつつあることです。教会を維持し、聖職者支援と関係施設等の縮小は緊急課題となっています。かつては宗教改革者が生まれ、世界各地に生けるイエス・キリストの福音を宣べ伝えた国です。私たちは大変心痛めていますが、終末論的視点から見れば悪の力が猛威を振るっている最終段階と思われます。どうぞお祈りください。イエス・キリストは次のように言われました。「しかし、わたしはあなたのためには、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

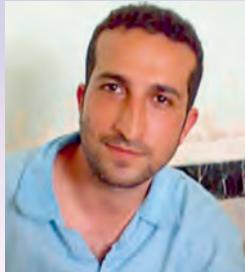
(ルカ 22:32)

パキスタン

ドイツに本部がある「キルヘ・イン・ノート」の発表によれば、パキスタンでは、イスラム教過激派組織による誘拐事件が後を断ちません。誘拐されるのはキリスト教徒とヒンズー教徒の若い女子で、イスラム教に強制改宗させられています。「パキスタンの正義と平和委員会」代表インマヌエル・ヨセフ師は、公式発表しました。しかし子どもの人権と強制結婚は、現在のパキスタンの法律では変えられないとのことです。特にシンドー州、ブニヤブ州では、過激派イスラム教徒によってキリスト教徒とヒンズー教徒の子女が狙われています。それに対してイスラム教徒の多くは、沈黙をしているとのことです。どうぞお祈りください。

イラン

イラン人ヨセフ・ナダカニ牧師は、2月26日テヘランのエヴァン刑務所から釈放されました。これは国際人権委員会（IGFM）の発表です。彼はキリスト信仰を拡散した理由から、イラン国家から安全を脅かす犯罪みなされ逮捕され、実刑判決を受けて獄中生活を強いられていました。ナダカニ牧師の獄中生活は長く、長年にわたり苦難が続いていました。かつて彼は2012年に服役中の刑務所から釈放されましたが、2016年には再逮捕されました。さらに2020年には再々逮捕され10年の刑を受けましたが、それが6年に減刑されました。そしてこの度の突然の釈放となりました。



ヨセフ・ナダカニ牧師

IGFMとキリスト教出版社「イデア社」は、ナダカニ牧師をすでに2010年に「今月の囚われ人」として挙げ、全世界のクリスチャンに釈放のアピールと祈りを要請していました。イスラム教国では、クリスチャンの逮捕が各地で発生しています。ドイツの政治家グローエ議員（CDU/CSU）は、「政治的交渉とクリスチャンの「とりなしの祈り」が求められる」と語っています。なぜならクリスチャンの逮捕は、政治犯として扱われているからです。神は政治的交渉と「とりなしの祈り」に応答くださるお方ですから、私たちは信仰を持って祈り続けようではありませんか。

オーストリア

カトリック教国と呼ばれ人口約900万人のオーストリアは、カトリック教会からの脱会者が増加していることが昨年末に判明しました。2017年には511万人いたカトリック信徒が、昨年1年で9万808人が脱会し、473万人となりました。逆に増加しているのは正教会信者で、5年前には40万人でしたが昨年末には44万人となりました。同じくイスラム教徒は70万人から75万人に増えています。これらの背後に政治的理由からの難民や亡命者たちがいるものと推測されます。お祈りください。

モザンビーク

4ヶ月以上投獄されていた米国人ミッションパイロットのリヤン・コーハー氏（31歳）は、再び解放されました。これは、コーハー氏が働いているミッション航空フェローシップ（MAF）が、オンライン新聞「クリスチャン・ポスト」を通じ発表しました。同報道によれば、パイロットと一緒に拘束された2人の南アフリカ人従業員も、3月14日に刑務所から出所しました。3人はモザンビーク北部で、イスラム国モザンビークに反する物資を輸送したとして告発されていました。

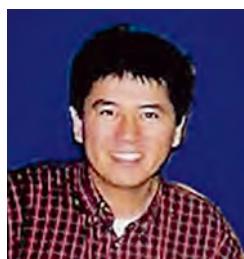
昨年11月4日、コーハー氏夫妻はイニヤンバネ空港で離陸準備をしていた、その直前に逮捕されました。MAFからの情報によれば、飛行機内には教会の児童養護施設で必要とする医療用品しかありませんでした。したがって、彼らには罪はありません。彼らは釈放後に家族と話すことができましたが、当局の調べがまだ完全に終了していないため、3人はモザンビークに留まらなければなりません。天然ガスが採掘されるモザンビーク北部では、2017年秋以降、軍と武装勢力の間で激しい衝突が続いている。MAFのパイロットはここ数か月、民間人を繰り返し戦闘地域から安全な地へ運んだり、現地人に救援物資を提供したりしてきました。どうぞ、お祈りください。



コーハー氏夫妻

中國

ウイグル人クリスチャンのアリムヤン・イミティ牧師は、15年の刑を経て釈放されました。キリスト教支援団体「チャイナ・エイド」の発表では、イミティ牧師は新疆ウイグル自治区のカシュガル出身で、1995年中国北西部の「家の教会」でキリスト教に改宗しました。2人の子どもの父親であるイミティ牧師は、2007年「違法な宗教活動」をしたとマークされ、翌年逮捕されました。



アリムヤン・イミティ牧師

彼は中国国家からの分離活動を扇動し、外国人に国家機密を伝えたとして告発され国家反逆者とみなされました。国際人権委員会（IGFM）とキリスト教出版社「イデア」は、2008年彼を「今月の囚われ人」として挙げ、世界中に祈りの要請を出していました。



編集後記

- いつも主様にあって祈りご支援ください、感謝とお礼を申し上げます。1年の中で最も過ごし易い季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今月も「宣教の声」を発行できる恵みに感謝します。
- 今年10月、「ミッション・宣教の声」では、「イスラエル聖地旅行」を企画しています。主イエス様の足跡を訪ねる幸いな旅ですので、関心がある方はミッション事務局までご連絡ください。海外からも現地集合で参加可能です。
- 新年度から「宣教の声」は新デザインとなってスタートしました。グローバル化時代にふさわしく、これからも世界各地からニュースをお届けします。それは大切な「祈りの課題」でもあります。どうぞ祈り覚えてください。感謝。



ミッション・宣教の声
The Voice of Mission

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)
1981年12月初版発行(毎月1回1日発行)

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP 関西センター 5F
TEL 06-6226-1334 FAX 06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp URL http://vomj.jp/

The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT



■郵便振替口座 00940-3-301623
■銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132 「ミッション・宣教の声」

Bank Address : 59-2 MIKUNIGAOKA-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041